

## 「ひらめき ときめき サイエンス」に参加して

藤原 清司

7月28日(土)に、「ひらめき ときめき サイエンス~ようこそ大学の研究室へ~」と銘打って、小学生と中学生を対象に、宇治川オープンラボラトリーにある実物大階段模型と浸水体験実験装置(ドア模型)を使って、地下浸水時の怖さを体験する催しが行われました。そこでの様子を、少し紹介したいと思います。

当日、技術室からは吉田室長を初めとして、辰己、松浦、富阪それに私、さらにはOBの多河さんが主催者側のスタッフとして参加しました。

募集に応募して参加してきた小学生は9名、中学生が12名、付き添いのお父さんお母さんがたが17名、合わせて38名の参加でした。

昼前に、参加者にこれから体験する実験の意味や内容を理解してもらうように、戸田先生の「都市水害と地下浸水」のお話がありました。昼食を食べ、午後1時過ぎから体験実験が始まりました。階段模型を先に体験する班と、ドア模型を先に体験する班の2班に分かれて行われました。

私は、ドア模型を担当しましたので、そこでの様子を紹介します。まず最初に、御池通の下にある駐車場、地下街、地下鉄の立体模型で、御池通に鴨川の水があふれてそこに浸水した場合の様子を見て貰いました。

次に、ドア模型(浸水体験実験装置)の体験です。水深を20cm、30cm、40cm(ドアに掛かる水圧:16kg、36kg、64kg)と変化した場合の水圧を体験して貰いました。お父さんお母さんがたも真剣になって、こども達と一緒に体験されました。

当然といえば当然ですが、やはり小学生よりも中学生(体格の大きい)の方が力が強く、私の記憶違いかも知れませんが、40cmでもドアを開けた子がいたように思います。

こども達も、お父さんお母さんがたも初めて体験することに嬉々として楽しまれていました。恐らく、「ひらめき ときめき サイエンス」で体験したことは、今後、何らかの役に立つことだろうと思います。こども達が、この経験を生かして水災害とその防止・軽減に興味を持ち、いつまでも忘れないでいることを願っています。



写真1 午前中の説明会の様子



写真2 ドア模型体験中!